aws

SUMMIT ONLINE

JAPAN

クラウド活用時代の人材育成について

小野 和俊

常務執行役員 CTO
株式会社 クレディセゾン

aws SUMMIT ONLINE

© 2020, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.

自己紹介: 経歴

1976年 生まれ

小学3年生から趣味でプログラミングを開始

1995-1999年 慶応義塾大学環境情報学部

NRIにてナレッジマネジメントシステムを企画・開発

1999-2000年 サン・マイクロシステムズ

シリコンバレーの米国本社にてJava+XMLを用いたサイジングアプリケーションを開発、E3 Award受賞

カリフォルニア州立大学サクラメント校大学院でのJava+XMLの授業を担当

2000年 アプレッソ起業

「日本にエンジニアの楽園のような場所をつくりたい！」

起業と同時にDataSpiderの企画・開発を開始、半年間で最初のバージョンが完成

DataSpiderは現在6年連続顧客満足度No.1、3000社を超える導入実績

2013年 セゾン情報システムズとアプレッソが資本業務提携

2013 HULFT CTO → 2014 CTO → 2015 取締役CTO → 2016 常務取締役 CTO

HULFTはMFT分野で世界3位にまで成長

次世代SIerのあり方を模索し、自社で仮説検証

2019年 クレディセゾンへ

事業会社でデジタルチームをゼロから立ち上げ

自己紹介

未踏ソフトウェア創造事業

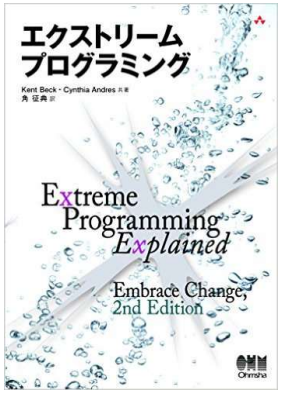
- PICSY(伝播貨幣) シミュレータークライアント設計＆実装(2002年)
- Galapagos(XM会議ツール) 共同開発者 (2004年)

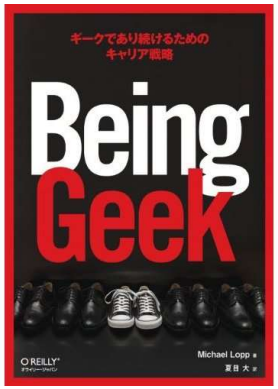
日経ソフトウェア

- 巻頭連載「小野和俊のプログラマ独立独歩」(2007-2010年)

九州大学 工学部大学院

- 「高度ICTリーダーシップ特論」 非常勤講師 (2008-2011年)





今日話そうとしていること

- 10分と時間が短いので一点だけ。
- クラウドの時代で、開発も次々とアジャイルに近づいて行っている。
- だが一方でオンプレミスもゼロではないし、社内でもウォーターフォール的なやり方になじみの深い人の方が圧倒的に多い、という人は少なからずいるのではないか。というより、事業会社はネット系ではない限り現状では割とそんな感じなのではないか。
- その中で、ベンチャーをずっとやってきて、エンジニアとしてやってきて、この前までセゾン情報システムズで常務 CTOをやっていて、2019年からクレディセゾンで常務 CTOをやっている私が思っている「この時代ならではの人材の在り方」をお話しできればと思います。

バイモーダルとは

バイモーダル

- バイモーダル = ふたつの流儀
- ユニモーダル = ひとつの流儀

バイモーダルの「ふたつの流儀」

- モード1
- モード2

-	モード1	モード2
タイミング	事後的	事前的
性向	安定性重視	速度重視
開発手法	ウォーターフォール	アジャイル
アプリ例	ERP,SCM	CRM,MA
管理部門	IT部門が集中管理	ユーザー部門が分散管理
対象業務	予測可能業務	探索型業務
例えるなら	武士:領地や報酬を死守	忍者: 何が有効なのかを探る
誰のためのもの	運用者(オペレーター)	革新者(イノベーター)
重視すること	効率性、ROI	新規性、大きなリターン
車の運転で言うと	リスクを抑えて安全運転	スピード重視で運転
経営	トップダウン	ボトムアップ
規模	大規模	小規模
強み	統率力、実行力	機動力、柔軟性

一部、ZDNet「経済のデジタル化がもたらす企業ITの“バイモーダル”が目指すもの」から引用
http://japan.zdnet.com/article/35075658/

バイモーダルな組織

「バイモーダル」が意味するもの

- モード1とモード2のどちらが良い、という話ではない
- 両方を兼ね備える組織が強い

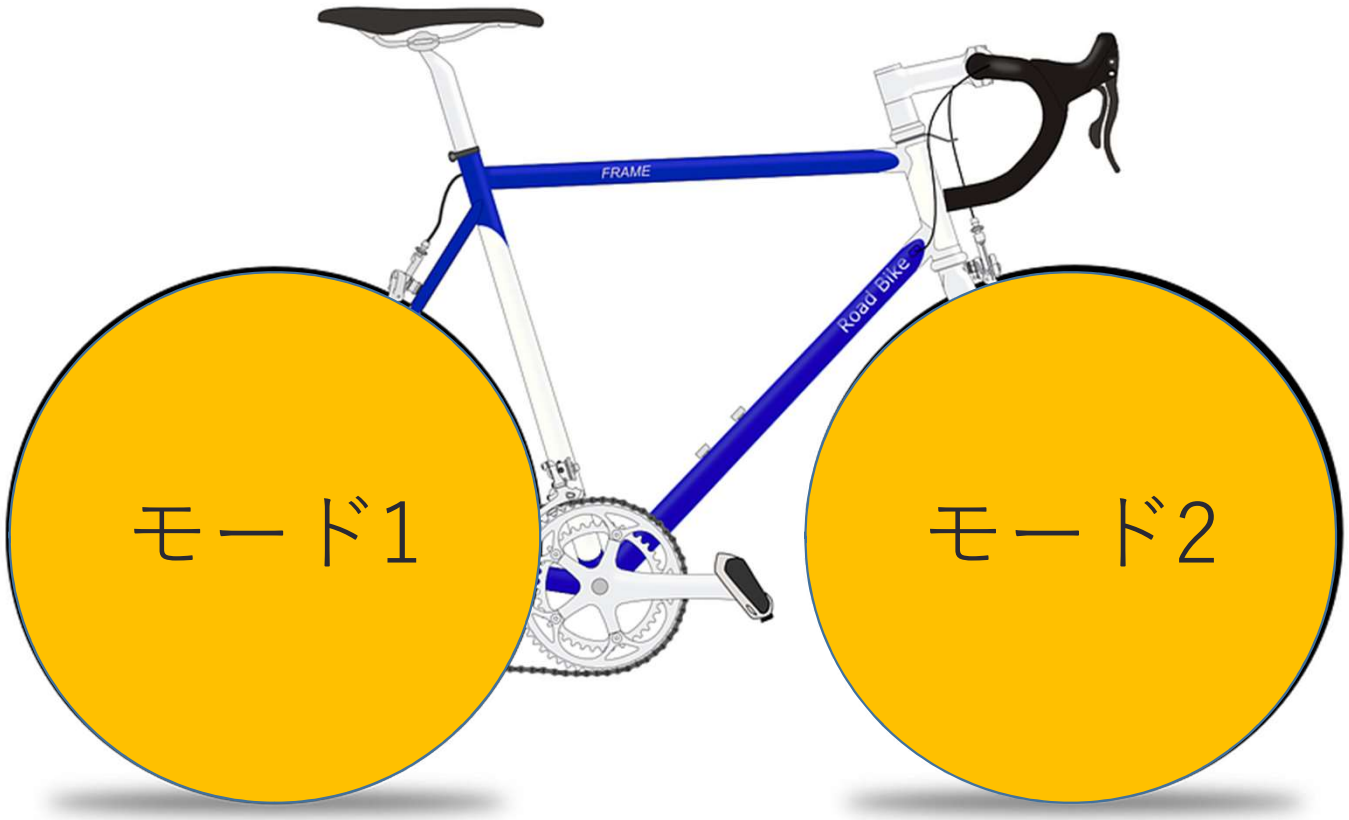
守護者(ガーディアン)

- モード1とモード2の調整役

ガートナーの予測

- 「2017年までにIT組織の75%がバイモーダルの能力を備えるようになる。そのうち半数の組織で混乱が生じる。その原因は文化的な問題に対処しないこと。」
- 「二重人格的要素を取り入れることが必要。」

自転車(Bicycle)とバイモーダル(Bimodal)の類似性



自転車(Bicycle)とバイモーダル(Bimodal)の類似性

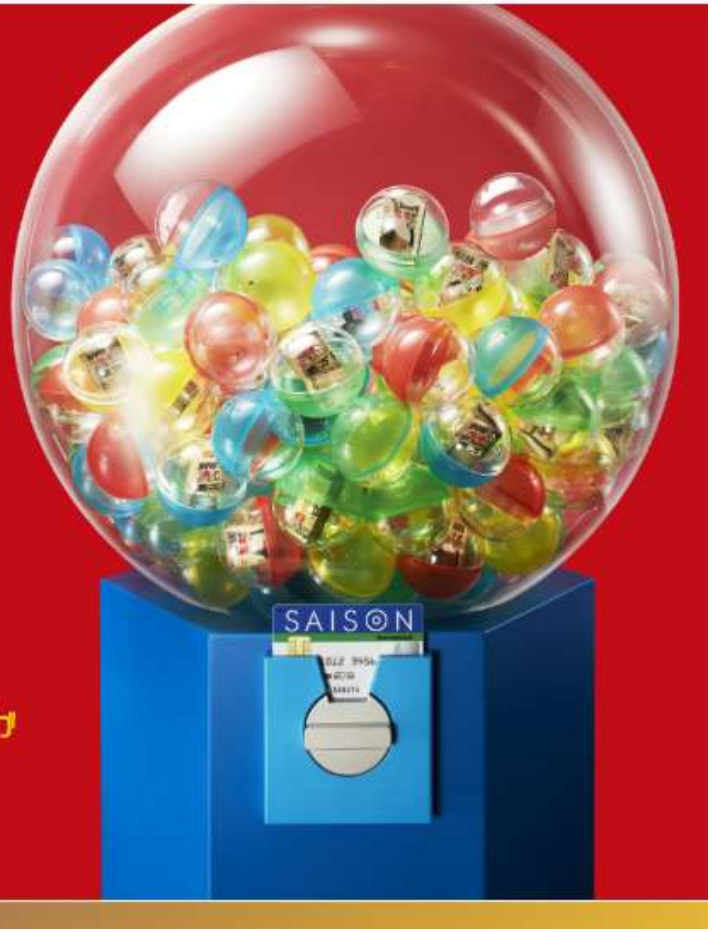
- 両方が存在することで安定する
- 一方(前輪、モード2)が方向を変えながら進むべき方向性を模索する
- もう一方(後輪、モード1)は方向性が決まったら、前輪に少し遅れて、自転車や事業をまっすぐに力強く進める

500円で1口。
毎日使えばチャンスアップ！

毎月あげちゃう

セゾンのお月玉

セゾンカード・UC カードのご利用で
毎月10,000人に現金10,000円が
当たる！

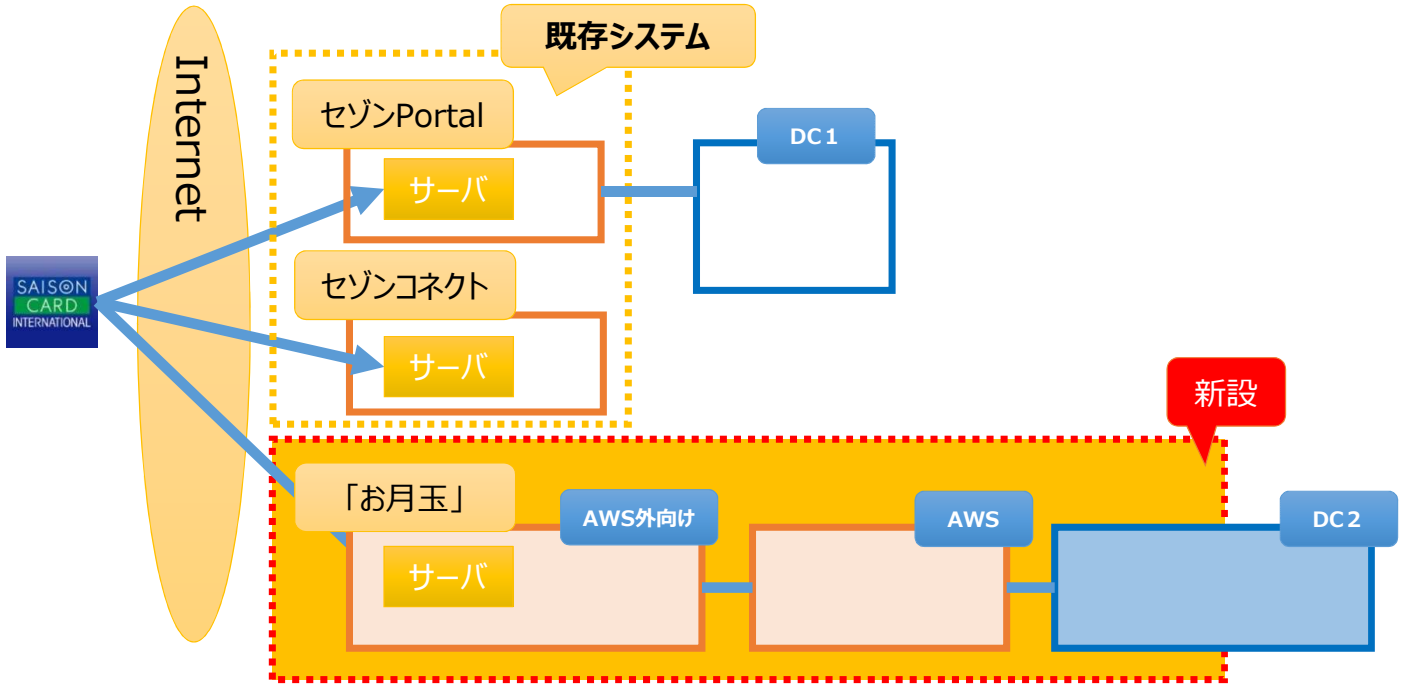


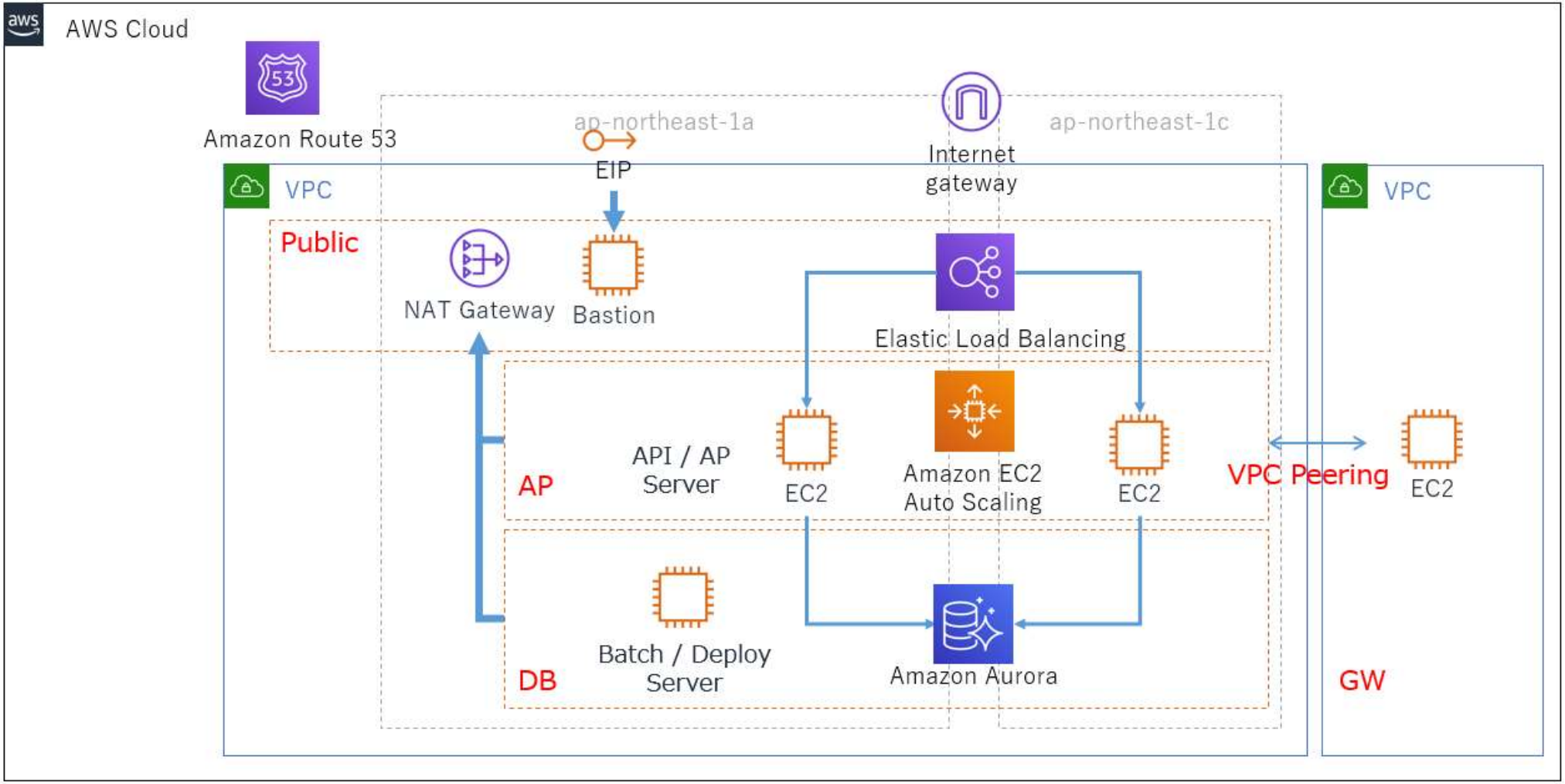
TOPページ

タップ

枚数詳細ページ

システム構成


Internet
既存システム
セゾンPortal
サーバ
DC 1
セゾンコネクト
サーバ
新設
「お月玉」
AWS外向け
AWS
DC 2
サーバ


AWS Cloud
Amazon Route 53
ap-northeast-1a
EIP
Internet gateway
ap-northeast-1c
VPC
Public
NAT Gateway
Bastion
Elastic Load Balancing
AP
API / AP Server
EC2
Amazon EC2 Auto Scaling
EC2
VPC Peering
VPC
EC2
DB
Batch / Deploy Server
Amazon Aurora
GW

「お月玉」振り返り

- ３月にエンジニア募集を開始し、採用面談と並行しながらどんな種類の「新しい体験」を届けるべきなのかのディスカッションを行った。同時に各種社内調整や開発環境構築、技術調査を進めた。
- 最初に取り組むべきプロジェクトとして「お月玉」が決まってからは一ヶ月で一気に開発を進め、無事開発完了することができた。
- 「お月玉」開始により、セゾンカードの公式Twitterアカウントのフォロワーは1万2千人(2019年8月末)→21万人(2020年6月末)へ。Twitter、Instagramとも「#セゾンのお月玉」のハッシュタグとともに現金1万円が贈られてきた写真が多数投稿された。
- プロジェクトの性質的に既存の基幹システムとセキュアに連携する必要があった。ベンチャー的なスピード感と、既存システムとの安全安心確実な連携とを両立することができたのは、まさにバイモーダル的な組織運営ができたことが大きかったと感じている。

心理的安全性は過酷

真に多様なチームにおいては心理的安全性を守ることはとても過酷。だが意見が真っ向から対立するくらいのチームの方が強い。

・クレディセゾンの小野のチームでの4原則

1. 「さん」付けの徹底、役職呼びおよび「くん」付けゼロの徹底。
2. 「HRTの原則」を100%守り切る。頭にくることがあっても絶対に怒らない。（言うべきことは言う。しかしできるだけマイルドに）
3. 短所ではなく長所を見る。短所は辛くても苦しくても全力で受け止める。
4. 世の中を良くする、企業を成長させるなど、成果を出すチームであることを最重視する。

本書はキャリア形成や現在の職場に関する悩みを抱えるエンジニアが
自分自身の状況に対する客観的な視点を得ることを手助けしてくれる書籍であると言えるだろう。
小野和俊（アプレッソ 代表取締役副社長 CTO）

「自分は次にどうすべきか」について考えるヒントに満ちている。
よしおかひろたか

技術・マネージメント・キャリア・転職、漠然と思っていたことが、
この本を通してかみ砕いて理解することができ、
エンジニアとしての生き方についてじっくり考えさせられた。
舘野祐一（クックパッド）

Ohmsha

O'REILLY®

「『Being Geek』への推薦の言葉」より

HRTの原則

HRTの原則: 優れた開発チームでは、次の3つの価値観が大切にされている。

1. 謙虚さ (Humility)
2. 尊敬 (Respect)
3. 信頼 (Trust)

「あらゆる人間関係の衝突は、謙虚・尊敬・信頼の欠如によるものだ」
「プログラマとして成功するには、最新の言語を覚えたり高速なコードを書いたりするだけではいけない。プログラマは常にチームで仕事をする。君が思っている以上に、チームは個人の生産性や幸福に直接影響するのである。」

「Team Geak ―Googleのギークたちはいかにしてチームを作るのか」より引用

まとめ

- クラウド活用の進む現代においても、技術や考え方が急にはシフトできない人も現状では数多くいる。
- そんな中、いま求められるのはバイモーダル人材。技術についても熟知し、これまでのやり方も安易には否定せず、「HRTの原則」を守りながら新旧を融合していく人材。
- 育成についても採用についても、マネージャー自身が今後取っていくべきスタンスについても同様のことが言える。

Thank you!

小野 和俊

株式会社 クレディセゾン

常務執行役員 CTO デジタルイノベーション事業部 管掌
（兼）デジタルイノベーション事業部長（兼）テクノロジーセンター長

aws SUMMIT ONLINE

© 2020, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.